

人の孤独を救う「おーい」の精神

今回は、「投資のバカの思考法」藤野 英人、から紹介します。

私は、コンビニで買い物をしたときも、レストランで食事をしたときも、新幹線の改札を抜けるときも、タクシーに乗ったときも、ものを買ったり、サービスを受けたりしたときは、必ず「ありがとう」を言うように心がけています。ホテルやトイレを掃除している清掃員の方にも「ありがとう」と感謝を伝えます。いいサービスを受けたときはもちろんですが、接客態度が悪いときでさえ「ありがとう」を言います。なぜそんなことをするのか。「ありがとう」には、周囲の人をプラスの感情に変える力があるからです。

先日ファミリーレストランで食事をしたとき、無愛想にしていた店員に、こちらから先手を打って「この豚肉、おいしいね。調理している人に『ありがとう』と伝えてね」と言うと、一瞬で彼女の表情が変わりました。しおれた花が一気に開花したように、笑顔を見せて「これ、先週からメニューに加わったんです。私はまだ食べていないんですけど、お客様に「おいしい」と言ってもらえると、私も嬉しいです」と。びっくりするほど明るく話をしはじめました。自殺や殺人といった痛ましい事件の背景には、「孤独」があるように思います。飛び込み自殺をする人の多くが、「通行人の多いところ」を選ぶそうですが、その理由は「関心を持ってもらいたいから」ではないでしょうか。以前、男性が新幹線で焼身自殺を図った事件がありました。彼には、心を許せる仲間がいなかったのかもしれませんが。ポリタンクを持って1号車まで歩いたのは、人との接点がほしかったからかもしれません。富士樹海の自殺志願者を救うパトロール隊の人に話を聞いたことがあります。自殺志願者を止める方法は、びっくりするくらい簡単なことだということです。それは「おーい」と声をかけることです。それだけで、9割以上の方が戻ってくるといいます。富士山の樹海まで来て死のうとする人が、「おーい」のひと言で止められる。だとしたら、こちらが関心を持って、ひと言声をかけるだけで、たくさんの人々の心をほぐすことができる。少なくとも自分の周りにおいては、「おーい」の精神を忘れないでおこうと思います。経営コンサルタントの船井幸雄さんが、「ありがとうが大事だ」とおっしゃっているのを聞いて、「なんだか、胡散臭いなあ」と思ったこともありますが、最近では、「やっぱり、ありがとうが大事だ」と実感しています。「ありがとう」は、「相手」に対する感謝であり、自分が払っている「お金」に対する感謝であり、ひいては「自分」に対する感謝でもあります。経済は互惠関係である以上、相手にリスペクトを払うことは、自分にリスペクトを払うことと同じです。そして、相手をバカにすることは、自分をバカにすることと同じです。「ありがとう」を言えば「ありがとう」が返ってきて、「怒り」は「怒り」で返ってきません。経済活動とは「お金」と「ありがとう」を循環させることです。私たちは「お金」という手段を使って、コミュニケーションをしています。このことを覚えておくと、経済に対する見方が変わるのではないのでしょうか。

Q 1 : 筆者は、経済活動とは何であると言っていますか？

A 1 : ()

Q 2 : 自分の発する言葉で、常に意識している事はありますか？

A 2 : ()